

# 環境教育及び学会に対する会員アンケート

企画委員会・会員アンケートWG (今村光章・雨川智史・村井尚子)

日本環境教育学会が設立から10年を迎えた。これまでの学会の10年のあゆみを振り返る10周年記念事業の一環として、会員への環境教育アンケートを実施した。アンケートのねらいは、会員の環境教育に対する考えの現状、および学会への評価を把握することにある。企画委員会の中にアンケートWGを設け、アンケート原案を作成した。その後、運営委員会において最終的なアンケートを作成し、WGが2000年1月にアンケートを実施し、回収、集計を行った。

## 結果

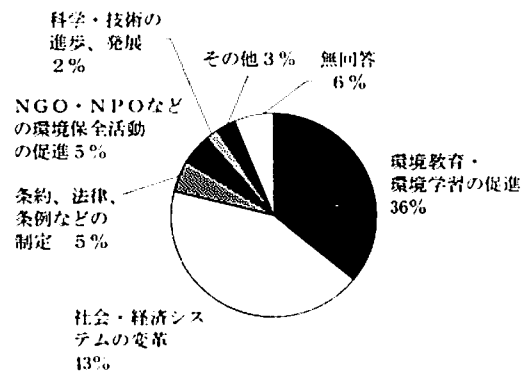
全学会員1703名に発送したが、返答があったものは、371通、回収率21.8%であった。

問1. あなたの最も関心のある環境問題はどれに該当しますか。2つ選んで下さい。

	回答数
①地域での自然の破壊	148
②国内での自然環境の破壊	134
③酸性雨・オゾン層破壊などの地球規模の環境問題	125
④地球の大気や水質、廃棄物などの環境問題	97
⑤国内の大気や水質、廃棄物などの環境問題	65
⑥開発途上国(地域)の環境問題	
⑦四大公害などの国内での公害・健康問題	10
⑧その他	61

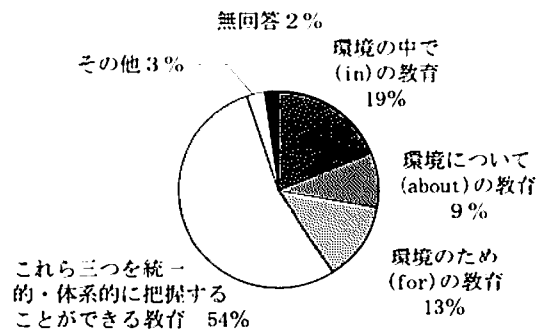
\*環境問題としては総じて自然破壊への関心が高い。

問2. あなたが、環境問題の解決のためにもっとも重要であると思う事柄はどれに該当しますか。



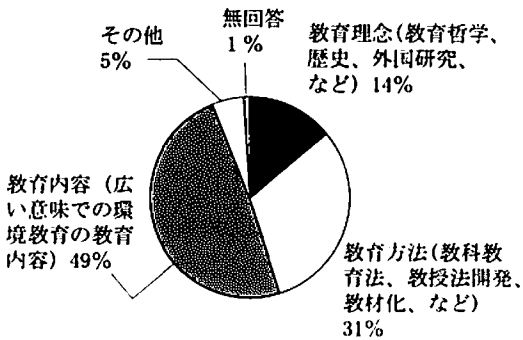
\*環境問題と社会経済システムの変革が重要であると考えている。

問3. あなたが、ご自身の環境教育の実践・研究領域のなかでもっとも重点をおいている領域はどれに該当しますか。



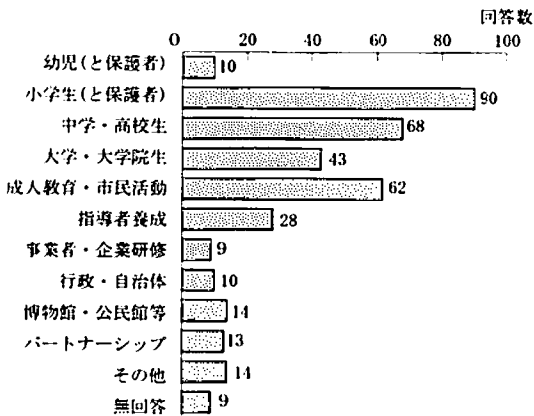
\*総合的に環境教育を行おうとしている。

問4. あなたが現在最も関心のある環境教育の理論的領域はどれに該当しますか。



\*内容(テーマ)に関心が高いのは、自明のことであろう。

問5. あなたの現在最も関心のある環境教育の対象はどれに該当しますか。



\*対象としては小学生が重要と考えているが、幼児は低い。関係者が少ないためであろう。

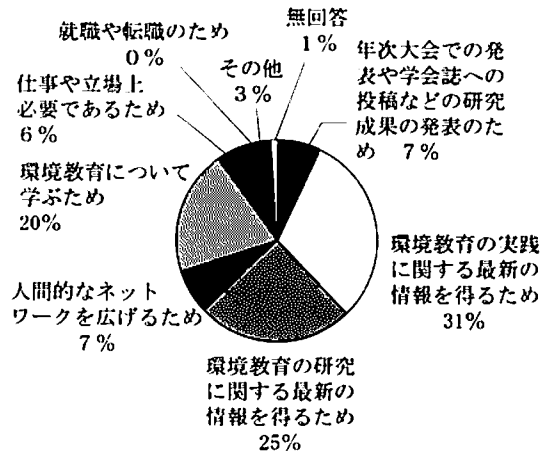
問6. あなたの関心のある環境教育のテーマはどれに該当しますか。3つ選んで下さい。

テーマ	回答数
①生態系、自然破壊、自然保護、里山、里地	225
②野外教育、野外活動、ゲーム、レクリエーション	127
③総合学習カリキュラム開発、クロスカリキュラム、授業論	101

- ④リサイクル、廃棄物、省資源、省エネルギー 93
- ⑤環境倫理、生命倫理、文明論、科学論 80
- ⑥環境汚染公害、地球環境問題、環境調査 75
- ⑦ビオトープ、エコアップ、環境保全、緑化計画 72
- ⑧ライフスタイル、都市、生活型公害 70
- ⑨ネットワーク、社会制度、政治・経済海外協力、ISO 63
- ⑩歴史的環境、文化的環境、食文化、ランドスケープ 61
- ⑪都市環境、都市自然、野生動物の都市化 43
- ⑫認知論、発達心理、関心・態度、意識調査、概念地図 42
- ⑬その他 19

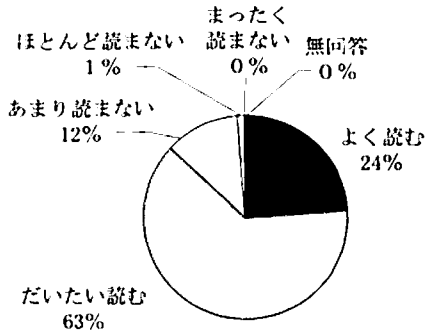
\*テーマとしては自然関係への関心が高い。

問7. あなたの学会へ入会した動機は、主にどれに該当しますか。



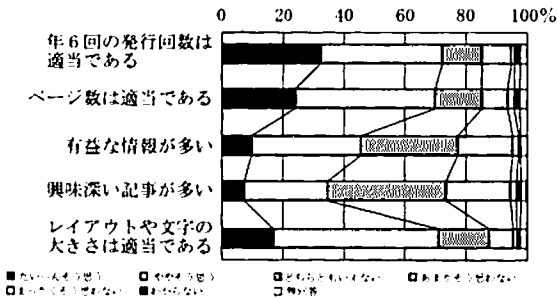
\*環境教育の実践や研究の情報を得ることが主な入会動機となっている。

問8. あなたは、ニュースレターをどの程度読んでいますか。



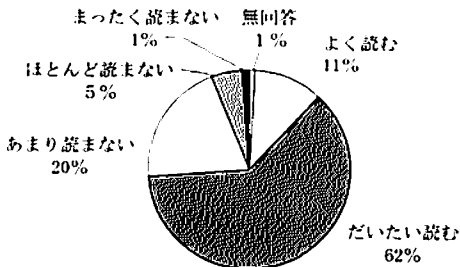
\*ニュースレターを8割以上の方が読んでいますが、読まない人もかなりいます。

問9. ニュースレターに関する以下の項目について、あなたはどのようにお考えですか。



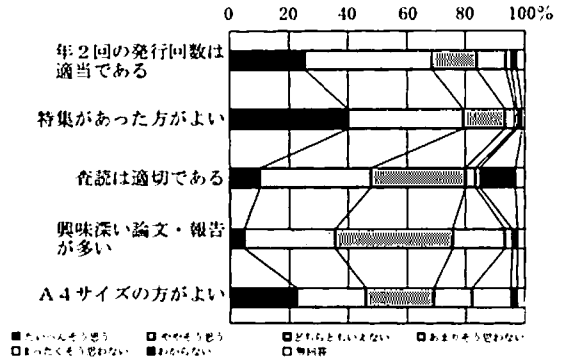
\*4割程度の方が情報や記事に満足しているようだ。

問10. あなたは学会誌『環境教育』をどの程度読んでいますか。



\*読まないという回答が、ニュースレターに比べて比較的多い割合で見られた。

問11. 学会誌に関する以下の項目について、あなたはどのようにお考えですか。



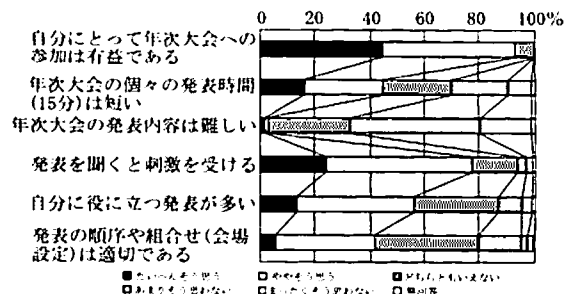
\*およそ半分の方が査読を適切だと回答している。

問12. あなたは年次大会にどの程度参加していますか。

- ①ほとんど参加している 15%
- ②だいたい参加している 23%
- ③あまり参加していない 24%
- ④ほとんど参加していない 14%
- ⑤参加したことがない 23%

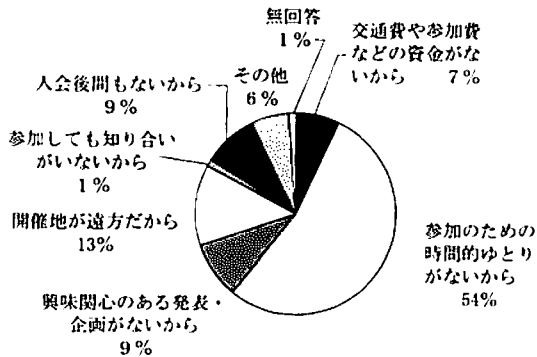
\*会員の40%近くが大会に参加している。教育関係の学会としては参加割合は高いのではないかと。

問13. (問12で①または②を選んだ方のみお答え下さい) 以下の各々の項目について、あなたはどのようにお考えですか。



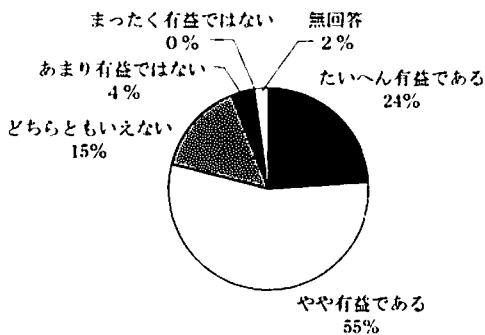
\*大会参加者の評価は高い。発表内容はむしろ易しいと感じている。会場設定に工夫がほしいと考えている。

問14. (問12で③～⑤を選んだ方のみお答え下さい) あなたが年次大会にあまり参加していない理由はどれに該当しますか。



\*2日間の学会参加のための出張は時間的に困難な状況がうかがえる。

問15. あなたがこれまで学会に入会してきたことは有益でしたか。



\*入会していることはほぼ8割の人が有益と評価している。

問16. 今後の環境教育において、より一層重要度の増す学習主体は、誰だと思えますか。2つ選んで下さい。

	回答数
①小学生	199
②一般社会人	141
③中学生	97
④高校生	52
⑤主婦・主夫	52
⑥就学前の乳児・幼児	46
⑦大学生	44
⑧その他	22
⑨高齢者	8

\*小学生と社会人が学習の場として重視されるべきと考えている。

問17. 今後の環境教育において、より一層重要度の増す教育・学習の場はどこだと思いますか。2つ選んで下さい。

	回答数
①地域	153
②小学校	144
③中学校	69
④家庭	69
⑤社会教育施設	64
⑥NGO・NPOなど	63
⑦就学前教育機関	32
⑧企業	32
⑨高等教育機関	29
⑩高等学校	28
⑪その他	15
⑫環境関係の行事など	5

\*小学校と地域が学習の場として重視されるべきと考えている。

問18. あなたは、今後の環境教育において、より一層重要度の増す学習課題は何だと思えますか。2つ選んで下さい。

	回答数
①生態系や自然の仕組みを理解する活動	167
②自然体験や野外活動	154
③資源・エネルギー問題やリサイクル活動など	128

④社会の仕組みや社会的経済環境保全活動	127
⑤環境倫理・生命倫理	78
⑥公害や地域レベル・地球レベルの環境問題	44
⑦その他	20

\*自然と社会・生活が課題として重視されるべきと考えている。

**問19. 今後、日本環境教育学会がどのような活動に力点を置くべきだと思いますか。2つ選んで下さい。**

	回答数
①教育方法の開発・普及と体系化	109
②実践主体のネットワーク化	99
③カリキュラムの開発・普及と体系化	87
④理論の体系化	85
⑤情報の整備・普及	84
⑥環境保全に関する政策提言	84
⑦教材の開発・普及と体系化	69
⑧国際的なネットワーク化	46
⑨学会員以外への情報提供・PR活動	39
⑩その他	16

\*学会として力点をおくべき活動は多様であった。総合的な発展がのぞまれる。

#### 問20 自由回答

学会のあり方や進むべき方向について、多くの意見をいただいた。その一部を以下にとりあげた。

**【学会の性格】** 我国の環境教育のリーダーシップ的な役割を果たして欲しい。学会としての方向を明確にすべき。日本の環境教育に対してどのような役割を果たしてきたのか評価すべき。方向、施策、運営などについて教育関係者以外の継続的な参画を行うべき。学会は市民、NPOと共にあるべき。Think globally, Act locallyの精神で、世界的な視野を大切に。

**【学会の方向】** 理論の体系化や、理論レベルを高めて欲しい。学会自体が、実践的でありたい。環境

教育は実践の積み上げが重要で、体系化はその後。情報交換の場として進むべき。環境型社会実現のため行政やマスコミなどに提言したい。社会的保障の確保のための政策提言や法制化へ向けての活動をサポートして欲しい。

**【学会の活動】** 県単位に支部を作り、それぞれの教育委員会とつながる。いくつかの専門部会に別れるべき。活動分野の違う人同士のネットワークをもっと。テーマ毎にグループを作り、それらを統括した方がよい。学会発表とは別に課題を設定して議論の場を設けるとよい。企業や自治体への働きかけができるといい。幼～高、大、社会、家庭に至るまでの体系的教育システムを作っていくことが必要。人材育成に力を入れて欲しい。

**【活動の対象】** 学校に対する情報の提供と理論的なバックアップが重要。小中学校における総合的な学習の時間のための実践プログラム作りが必要。学校教育中心でなく、成人を対象に広く生涯学習として追求していくべき。人口、経済、人権、平和、エネルギー等、多様な視点から取り組むべし。温暖化やゴミ問題、人口など地球規模での視野を広げるべき。研究者、教育関係者だけでなく地域の実践家が参加できる工夫が必要。環境教育の対象・分野が広すぎるので整理するべき。組織の細分化をはかって、研究内容、情報提供などを深めるべき。アドバイザー制度や資格制度など、職業としての場も必要。

**【役員構成について】** 地域・職業・活動分野から選出される評議員と執行部の理事とに分ける。大学以外の小、中、高教員や外部の人も入るような体制や選挙であって欲しい。

**【大会について】** 大会の開催時期は夏休み中などにしてほしい。全面禁煙、運営エネルギーを削減する等、環境教育の理念を表現できないか。何年間かで1つのテーマや特集を掘り下げた研究発表はどうか。ひとつのテーマについてリレーで論じていくような企画も楽しい。現場に赴き理解を深め

---

たい(遠足の取り組みは良いと思う)。教育機関以外での発表の増加を望む。環境経済学などと手を組んだ学際的研究、環境全般を視野に入れた研究発表を。

**[学会誌について]** 発行を増やして。学問的レベルの追求よりも地域での地道な環境教育の支援を重視して。理論誌と実践誌とに分けてはどうか。一般への企業・市民提言を含めた環境情報雑誌を発行して。実践報告例を多くして。海外での実践紹介などを載せて。学会誌には組織や役職氏名など載せて。論文を韓国語などに要約し、相手国に配る。

**[ニュースレター]** インターネットをもっと活用すべき。広告の封入はやめてほしい。

**[その他の参考になる意見、提案]** 地方での研究会や全国各地でフォーラム、講習会などのイベントがあるといい。都市の環境創造にもっと重点を置いた実践が必要。定量的な「効果測定」は重要であり、その評価法の研究が必要。子どもと家庭から環境教育を進めていくべき。もっと時間とパワーのある大学生に活躍してもらいたい。自然との接触を通して一人一人がこの自然界の主であることを理解させて欲しい。人間は大宇宙の一つに過ぎないといった倫理観の植え付けが重要。自然教育、地球倫理の体系化とカリキュラムの開発・普及。全国的に会員のばらつきがないようにできないか。研究者と実践者が同じ場で集えることが魅力。日本の環境教育は公害対策や自然保護活動から脱却してない。まだ激動の時代なので現状のままではしばらく様子を見るのがよい総会などの運営・企画について政治色が強すぎる